

柔道競技の部

1. 日 時 令和3年10月9日(土)・10日(日)

【9日(土) 男女団体戦】

8:00 開場(選手集合・準備)
8:30~9:00 計量
9:00~9:15 審判監督会議
9:20~ 開始式

【10日(日) 男女個人戦】

8:00 開場(選手集合・準備)
8:30~8:45 計量
8:45~9:00 審判監督会議
9:05~ 開始式

※本大会は無観客試合とし、両日とも12:30には終了予定。

※天候等の都合で9日(土)が延期になった場合は10日(日)午後に繰り下げて試合を行い、10日(日)の天候が心配される場合は9日(土)の午後に予定を繰り上げて実施する。

2. 会 場 和歌山県立武道館(和歌山市和歌浦西2-1-22)

3. 役 員

競技専門部長	高木 康子(西脇)	同副部長	竹内 伸行(楠見)
競技専門委員長	喜多 晃嗣(西脇)	同副委員長	山口 雅矢(紀伊)
総務委員長	田川 大祐(西浜)	同副委員長	松本 茜(日進)
審判長	森下 博友(東和)	副審判長	澤本 貴久(河西)
審判員 ・ 役員	澤本 貴久(河西) 山口 雅矢(紀伊) 田川 大祐(西浜) 森下 博友(東和) 中村 太紀(河北) 岡室 久志(西和) 嶋田悠樹(河西)	喜多 晃嗣(西脇) 三田 真司(近附) 松本 茜(日進) 岡部 江利(明和) 武内 章(伏虎) 湯川 吉宏(東和)	
記録員	上田 紗智(楠見) 新谷 泉衣(紀伊)	赤松 薫(明和)	
救護	堺 亜希子(桐蔭) 出口 千晴(河北)		

4. 参加資格

- (1) 参加者は、和歌山県中学校体育連盟に加盟の中学校に在籍し、当該学校長が参加を認めた1校単位で編成されたチームおよび個人とする。
- (2) 年齢は、平成20年4月2日以降に生まれた生徒に限る。
- (3) 個人情報の取り扱い

取得する個人情報については大会参加の要件とする。ただし、本連盟は、個人情報保護に関する法令を遵守し、和歌山県中学校体育連盟 個人情報保護方針に基づき、取得する個人情報について適正に取り扱う。取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成、大会結果掲載(ホームページ・大会記録集・報道機関への提供等)、その他競技運営及び競技に必要な連絡等に利用するので理解すること。

5. 引率者・監督

- (1) 参加生徒の引率者及び監督は、当該校の校長・教員であること。
- (2) 審判員に準じた服装をすること。

6. コーチ

コーチの参加を承認する。〔コーチとは、当該校の監督でない教職員(内部コーチ)・それ以外(外部コーチ)とする。〕

- (1) コーチの条件とは、次の通りである。

- ① 当該校の校長が認めた者。
- ② 年間を通じ、日頃から学校の部活動を指導している者。
- ③ 中体連の大会運営に関して、理解を示し、協力的な者。
- ④ 外部コーチは、中学校の教職員でないこと。
- ⑤ 審判員に準じた服装をすること。

※大会運営上支障をきたすと大会本部が判断した場合は、会場より退場をさせることもある。

7. 参加制限

- (1) 団体戦のチームは、男女とも1校単位で編成したチームとする。
 - ① 男子チームの人員は、監督1名・(コーチ)・選手7名以内とする。
 - ② 女子チームの人員は、監督1名・(コーチ)・選手4名以内とする。
- (2) 個人戦は、男子8階級、女子8階級
 - ① 選手には、監督1名が付き添うこと。
 - ② 体重区分は、次の通りとする。

(ア) 男子50kg級(50kg以下)

55kg級(50kg超～55kg以下)

60kg級(55kg超～60kg以下)

66kg級(60kg超～66kg以下)

73kg級(66kg超～73kg以下)

81kg級(73kg超～81kg以下)

90kg級(81kg超～90kg以下)

90kg超級(90kg超)

(イ) 女子40kg級(40kg以下)

44kg級(40kg超～44kg以下)

48kg級(44kg超～48kg以下)

52kg級(48kg超～52kg以下)

57kg級(52kg超～57kg以下)

63kg級(57kg超～63kg以下)

70kg級(63kg超～70kg以下)

70kg超級(70kg超)

8. 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定・「少年大会申し合わせ事項」等による。
- (2) 優勢勝ちの判定基準は次のとおりとする。
 - ① 団体試合の個々の試合は、「技有」又は「指導差2」以上とする。チームの内容が同等の場合は代表選を行う。代表戦で得点差がない場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
 - ② 個人戦は「技有」以上とする。得点差がない場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
- (3) 試合時間は、団体戦・個人戦とも3分間とする。延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。
- (4) 柔道着は白色とする。
- (5) 財)講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。

9. 計量・柔道衣点検

(1) 【計量】

- ① 出場選手は、公式計量の指定時間内に計量を行うこと。
- ② 公式計量の指定時間内であれば、再計量を認める。
- ③ 公式計量の服装は、男子は下穿き、女子はTシャツと下穿きの着用を認める。
なお、下着の着用は認めるが、包帯サポーター等の着用は一切認めない。

(ア) 団体戦

- a チームごとに登録選手全員が測定を行うこと。
- b 順番の入れ替え等があった場合は監督会議でこれを通知する。

(イ) 個人戦

- a 定められた階級の体重区分内にない者は失格とする。
※ 別室計量が必要なものはあらかじめ申し出ること。

(2) 【柔道衣点検】

- ① 団体・個人戦とも、公式計量に引き続き服装検査を行う。
- ② 柔道衣に必ずゼッケン(学校名・名字入り)を縫い付けて出場すること。
 - (ア) 布地は白(晒・太綾) サイズは、横30cm～35cm、縦25cm～30cm
 - (イ) 名字(姓)は上側2/3、学校名は下側1/3
 - (ウ) 基本書体は太字ゴシック体とするが、明朝または楷書でも可とする。
男子は黒色、女子は濃い赤色。
 - (エ) 縫い付け場所は襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。
- ③ 女子は、上衣の下に白色又は白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。
- ④ Tシャツのマーキングについては、全日本柔道連盟が定める規定(平成25年4月1日より施行)に準ずる。
- ⑤ 柔道衣コントロールの際は、試合時に着けるサポーター等を着用して受けること。
- ⑥ 胸マーキング等について、道場名等は不可とする。

10. 競技方法

(1) 団体戦

① チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても同様に体重順とする。〔試合毎の選手位置の入れ替え及び、一度退いた選手の再出場は認めない。〕

※選手変更は基本的に、前試合開始までに所定の場所にて受け付ける。

② リーグ方式の順位は、次の方法によって決定する。

(ア) チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。

(イ) アにおいて同等の場合は、勝ち数の合計による。

(ウ) イにおいて同等の場合は、勝ちの内容により決定する。

(エ) ウにおいて同等の場合は、負け数の合計による。

(オ) エにおいて同等の場合は、負けの内容により決定する。

(カ) オにおいて同等の場合は、1名による代表戦を1回行い、決勝トーナメント方式への出場チームを決定する。〔3校同等の場合は、代表者3名によるリーグ方式を行う。〕

※代表戦に出場する選手は、チームで選出する。

③ トーナメント方式の順位は、次の方法によって決定する。

(ア) チーム間における勝ち数による。

(イ) アにおいて同等の場合は、内容により決定する。

(ウ) イにおいて同等の場合は、1名による代表戦により決定する。

※代表戦に出場する選手はチームで選出する。

(2) 個人戦

① 男女とも各階級トーナメント方式で行う。〔出場者が少ない階級は、リーグ方式で行う場合もある。〕

11. その他

(1) 男子団体戦の第3位・第4位は、敗者復活戦を行い決定する。

(2) 個人戦は、各階級とも1・2位の選手が、県大会に出場できる。

また、第3位は、敗者復活戦を行い決定する。

(3) オーダー表の提出について〔団体戦出場校は、試合当日、オーダー表を持参すること。〕

※オーダー表の横幅は男女とも約80cm(模造紙幅)とする。

《 団体戦オーダー表の書き方 》

	校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
約30cm	西 浜	山	田	森	中	澤
		口	川	下	村	本

約80cm

(4) 選手変更について

① 団体戦

(ア) 大会申込書提出後、選手の病気・負傷等で選手変更を必要とする場合は、所定の変更届に必要な事項を記入の上、変更届を提出すること。

※変更届は、監督会議までに大会事務局に提出すること。

(イ) ア以後は、登録選手の交替のみとし、体重順に編成替えをすること。

(5) 大会期間中の負傷・疾病等については、応急手当のみ行う。

① 参加者は、健康保険証(コピー可)を持参することが望ましい。

(ア) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。

感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手の皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

(イ) 脳震盪対応について選手及び指導者は下記事項を遵守する。

a 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。

b 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。

※至急専門医の精査をうけること。

c 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

d 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(6) 本大会では、部旗・応援旗の掲示は、大会運営に支障がないもので、壁に傷等がつかないように固定ができるものとする。

(7) 大会期間中、健康上の理由等で監督の変更が必要とされる場合、大会事務局に申し出ること。

(8) その他、諸問題が生じた場合は、審議し決定する。

12. 新型コロナウイルス感染症対策について

本大会は無観客試合とし、会場には選手・役員・監督・コーチ・補助員・一部の視察員以外の入場は認めない。また、参加者全員に参加承諾書、体温・体調チェックシートの提出を義務付けることとする。